

もし神がおられなかったなら

創世記三十一章22～55節

もし、私の父の神、アブラハムの神、イサクの畏れる方が私に付いておられなかったら、……神は私の労苦と悩みを目にして、昨夜、あなたに注意されたのです。(42)

2/

ヤコブ一家が家畜を連れて逃げ出したという知らせを聞いたラバンは、血相を変えて追いかけてきました。ところが、ヤコブたちに追いつく前夜、神はラバンの夢に現れ、ヤコブたちを引き止めてはならないと命じました。こうしてついに、ヤコブはラバンの束縛から解放され、二十年ぶりに故郷へ帰って行きました。苦節の二十年を振り返るとき、ヤコブの心に去来した思いが今日の聖句です。そうです。もしアブラハム、イサクの神がヤコブと共におられなかったなら、ヤコブの人生は苦しみのままラバンの家で終わっていたことでしょう。故郷へ向かいながら、共におられた神に感謝するヤコブでした。私たちも自分の生涯を振り返るとき、多くの山坂を越えて今ここにあるのは、ただ神の恵みと憐れみのゆえではありませんか。「君に守られて今日まで来ぬと」(新聖歌三四〇番)。